受付番号　　Ⅱ－03

薬物依存症からの回復をめざす「農業プログラム」の開発　2024年　2月　19日

2023 年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名　特定非営利活動法人八王子ダルク
代表者・役職名　氏名　代表理事・加藤隆

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

薬物依存症からの回復をめざす「農業プログラム」の開発

2. 団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで）

施設の代表や職員の多くは多摩地区で薬物使用経験があり、当時、多摩地区にダルクが無かった為に苦しんだ経験から、東京ダルクの協力のもと、2011 年に東京ダルク八王子（任意団体）を開設し、2015 年にNPO法人八王子ダルクとして独立をした。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可）　250文字程度まで

近年、薬物依存症の傾向として、違法薬物やアルコールの他にも処方薬、市販薬など依存物質が多様化しているという問題がある。それだけに、薬物依存症者を「孤独」の状態から「つながり」をもつ状態へと支援するため、多様な回復プログラムを用意する必要が生まれている。今回、開発をめざす「農業プログラム」もその 1 つとして位置づけられる。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）　300文字程度まで

八王子ダルクでは、2019 年から八王子市恩方地区の篤志家から農地を無償で借り受け野菜作りに取り組んできた。これは依存症者が野菜を育てる喜びや難しさを体験し、やりがいと自信を取り戻そうとする試みである。しかし、これまでの取り組みは年間の栽培計画があいまいで、栽培技術に関しても「見よう見まね」の域を出ないもので、依存症からの回復プログラムとしては未整備だった。そのため、農業を通じた依存症者の気づきや共感が明確なものとなるような「農業プログラム」の開発に取り組んだ。

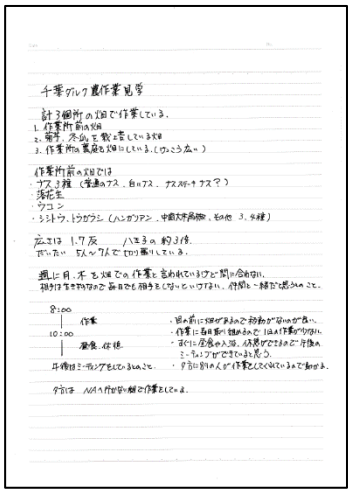
5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』　300文字程度まで

2019 年から八王子市恩方地区で続けてきた野菜作りの試みを、年間の栽培計画にもとづいた一連の「農業プログラム」として軌道に乗せることができた。この過程で、依存症者である参加メンバーが土作り・除草、種まきから収穫までの共同作業をしつつ、多くの気づきと感動を得た。
耕耘機を導入したことで2～3 時間程度の農作業を週に 2 回ずつ週間のプログラムに組み込むことが可能となった。また、「収穫祭」を 2 回開催（八王子ダルクの利用者を中心にそれぞれ 30 人ほどが参加）し、みずから育てた野菜を味わい、交流を深める機会になった。
以上のように、孤立・孤独な状態に置かれている依存症者が「つながり」を実感できる回復のためのプロジェクトとして「農業プログラム」が有意義であると確認できた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など　300文字まで

年間を通じた農作業、野菜の栽培によって依存症者が回復していくために重要な「つながり」を実感することができた。しかし、今年度の取り組みは依存症者どうしの「つながり」にとどまり、社会との「つながり」を実現するところまでにはおよばなかった。「農業プログラム」を実践している地域には町内会をはじめ、地域課題に取り組んでいる NPO 法人などがあり、こうした団体と農業を媒介とする連携をはかることで、今後は地域社会との「つながり」も実感できる「農業プログラム」へと展開させていきたい。また、本格的な有機栽培など、特徴のある農作物の栽培にチャレンジすることも課題である。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



千葉グループ農作業見学

計3個所の畑で作業している。
1. 作業所前の畑
2. 野菜 苗から生育を観察している畑
3. 作業所の裏側も畑にしている。(ひょうたん)

作業所前の畑では
・ナス3種（普通のナス、白いナス、ナスのミニナス？）
・落花生
・ウコン
・シソ、トウガラシ（ハンガリアン、中国大唐辣椒、その他 3、4種）

広さは 1.7反　八王子の 約3倍。
だいたい 5人ぐらいで切り盛りしている。

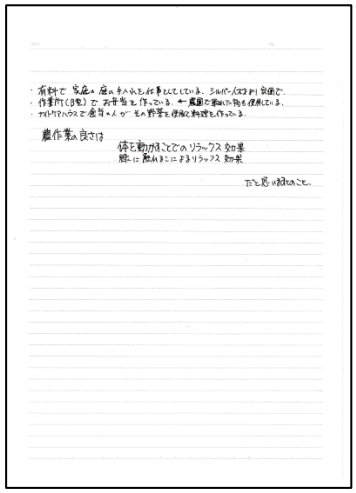
週に1日、本当の畑での作業を進められているけど間に合わない。
植物は生き物なので毎日でも植物をこまめにみないといけない。作業員を一緒にみんなのこと。

8:00
|　作業
10:00
|　厨房、休憩

・朝の前に雑草がまんべんなく刈られるのが良い。
・作業に毎日事に慣れると1日1人作業がつりない。
・まずに厨房の入浴、休憩ができるので作業のミーティングができていると思う。
・今日は別の人達が作業をしてくれているので助かる。

昼食は ミーティングをしてみんなのこと。

今日は NPO 千葉が別の畑で作業をしている。



・有料で 家族や 友人や 多人数も作業をしている。シルバー人材センター 会員で。
・作業所(3名) で お弁当を作っている。 ・裏側に畑の物も使用している。
・ナイトケアハウスで 看護士さんが 毎の野菜を使用し料理を作っている。

農作業の良さは
　体と動かすことでのリラックス効果
　際に触れることによるリラックス効果

ありと思いの話のこと。